

資料編

これまでの検討経緯 (1)

事業アイデア集 (21)

市民参加事業 (89)

利用団体へのアンケート結果 (97)

これまでの検討経緯

(仮称) 苫小牧市民ホール建設検討委員会
及びワーキンググループの議論内容

● 第2回 検討委員会

日時：平成28年8月1日（月）14時00分

場所：本庁舎9階会議室

各ワーキンググループのリーダーより、各部会で議論された内容についての報告がありました。具体的な活動や事業のアイデアと、それを実現・実行するための運営形態をセットで検討すること、様々な選択肢がある中で、何を価値観として共有し、事業や活動を実行するのかという点について明確にしながらか議論することの重要性が確認されました。

● 第2回 活動ワーキンググループ

日時：平成28年8月16日（火）14時00分

場所：本庁舎2階21会議室

平成28年6月に実施した、市内での芸術・文化活動団体へのアンケート調査の結果報告を行いました。また、事業アイデアの検討においては、家の中に閉じこもりがちな子どもたちを遊ばせる場所になること、市内に数多くいるクラフトや衣服などの作家が活躍できる場所になること、市内で育った若手の演奏家や芸術家が気軽に演奏会や展示会などを開催できる場所になることを目指す必要性について議論されました。

● 第2回 鑑賞ワーキンググループ・第2回 展示・窓口ワーキンググループ

日時：平成28年8月22日（月）13時30分

場所：本庁舎9階会議室

平成28年6月に実施した、市内での芸術・文化活動団体へのアンケート調査の結果報告をした後、各グループに分かれて事業アイデアを議論しました。

鑑賞グループでは、それぞれのメンバーが情報を集めた市内外における活動事例の紹介を行い、企画から公演までを一から市民でつくりあげるイベントの実施、演奏者・鑑賞者の両者を育てるサークルの取組、ジャンルや世代間交流を促す仕組みの必要性などについて議論されました。

展示・窓口グループでも同様に、市内外における活動事例の紹介を行い、窓口機能の役割として、市内の活動が一度に把握できる情報拠点となること、市内で活動する様々な団体や個人の協働を促し、新たな活動へ展開できるような仲介役となることが挙げられました。また、展示機能については、既存の展示空間とは異なり、写真展と写真教室を連動させ、笑いと書道展示を組み合わせるなど、体験型で動的な展示のあり方を提案したいという意見が出されました。

● 第3回 活動ワーキンググループ

日時：平成28年9月26日（月）14時00分

場所：本庁舎2階21会議室

「地域活動」と「共用空間」をキーワードにした事業アイデアの検討が行われました。

「地域活動」については、自分のまちをテーマにした壁新聞の作成、子どもたちを地域全体で支援するための基金などのアイデアが出されました。「共用空間」については、既存の活動を連携させるイベントの開催、アマチュアでもソロデビューができるような機会の創出、市民によるマネジメント組織^{注5)}などの提案がありました。

● 第3回 検討委員会

日時：平成28年9月29日（木）14時00分

場所：本庁舎9階会議室

検討委員会とワーキンググループの役割について、検討委員会は各グループから出た議論をチェックするだけでなく、全員で理解し合いながら、より質の高い事業アイデアとしていくことを共通認識として確認しました。

ワーキンググループからの報告では、議論の内容を具体的な事業アイデア集としてまとめたものを発表しました。多岐に渡る豊富なアイデアをまとめる際、「育てる」「知る」「関わる」「つなぐ」「集う」の5つの事業に分類できるのではないかという意見が出されました。

注5) 管理運営組織。(management)

● 第4回 活動ワーキンググループ

日時：平成28年10月11日（火）13時30分

場所：本庁舎9階会議室

「余暇環境」と「フレキシビリティ^{注6)}」をキーワードにした事業アイデアの検討が行われました。

「余暇環境」では、仕事帰りの市民が立ち寄ることのできる時間設定について議論され、毎日でも夜間開放する企画、屋外空間を使いこなす運営などが提案されました。「フレキシビリティ」では、具体的な利用者や活動が想定されていないと可動間仕切りの設置やマルチスペースが無目的な空間になる恐れがあるため、世代ごとのテーマを設けた空間の想定について話し合われました。

● 第4回 鑑賞ワーキンググループ

日時：平成28年10月18日（火）13時30分

場所：本庁舎2階21会議室

「無目的利用」と「定常・定期利用」をキーワードにした事業アイデアの検討が行われました。

「無目的利用」については、普段施設に訪れることのない市民へのきっかけづくりとして、とまチョップポイント^{注7)}と連携したポイントシステムや、施設に行けば手に入る市民情報などの発信について議論されました。「定常・定期利用」では、施設の空き部屋を有効活用するシステムや複合予定である交通安全センターを想定し、交通安全などの啓発活動を文化活動と併せて行うアイデアが出されました。

● 第4回 展示・窓口ワーキンググループ

日時：平成28年10月18日（火）13時30分

場所：本庁舎2階21会議室

ゲストスピーカーとして、北海道新聞「とまこむ」の編集者を招いて企画の立て方、情報発信についての話を聞きました。常にアイデアを検討し続けること、同じ対象でも様々な角度から見ると異なる企画が生まれること、過去ではなく未来の情報を届けることの重要性について議論されました。

注6) 柔軟性や融通性。例えば、目的や用途に応じて部屋が可変したり、利用区分に幅を持たせたりするなどの柔軟な対応を目指すこと。(flexibility)

注7) 市内の「とまチョップポイント加盟店」での買い物をした際や、市の事業やイベントに参加した際、また公共施設を利用することで貯まるポイント。

● 第4回 検討委員会

日時：平成28年11月2日（水）14時00分

場所：本庁舎2階21会議室

ワーキンググループからの報告として、具体的な事業アイデア集を発表しました。「現実的にこのアイデアでは難しい」ではなく、「本来はこういったことができるといい」という発想でアイデアを出し、それらを公共施設で行う意義と、実現するための工夫を検討することの重要性について意見が出されました。また、これまでに提案された事業アイデアを「育てる」「集う」「知る」「関わる」「つなぐ」に分類した資料をもとに、各種の事業連携を意識した検討を積み上げていく必要性について確認しました。

● 第5回 鑑賞ワーキンググループ

日時：平成28年11月9日（水）13時30分

場所：本庁舎2階21会議室

「ついで利用」と「フレキシビリティ」をキーワードにした事業アイデアの検討が行われました。

「ついで利用」としては、食と関連づけたイベントや体験の企画、入ってみたい、参加してみたいと思えるような工夫のあるサイン（施設内の案内標識）やサイネージ（電子看板）の計画、施設を介して市民のモノや情報を交換できる拠点になるといったアイデアが議論されました。「フレキシビリティ」については、子どもが雨の日にも遊べるような場所にすること、演奏者と観客の距離を縮めるようなホワイエの使い方、思春期の子どもたちと親をつなぐ試みについて議論されました。

● 第5回 展示・窓口ワーキンググループ

日時：平成28年11月9日（水）13時30分

場所：本庁舎2階21会議室

「情報発信」「居場所・居心地」「雰囲気づくり」をキーワードにした事業アイデアの検討が行われました。

「情報発信」については、イベント情報だけでなく演者の素顔に迫るような記事を載せた広報誌、子ども記者クラブの結成、情報拠点センターとなるようなプログラムが提案されました。「居心地・居場所」については、大人が非日常を味わえる居場所づくり、子どもたちが安心して過ごせる場所などの必要性が挙げられました。「雰囲気づくり」では、利用者と窓口、職員同士の距離を縮める事務室の作り方について意見が出されました。

● 第5回 活動ワーキンググループ

日時：平成28年11月14日（月）13時30分

場所：本庁舎2階21会議室

「創作環境」と「管理運営組織」をキーワードにした事業アイデアの検討が行われました。

「創作環境」については、世代間交流の実現や、予約なしで気軽に創作できる環境、食に関する社会貢献事業の展開が期待されました。「管理運営組織」については、指定管理者制度の場合、創造的な運営企画や市民との協働が不可欠であること、市民ボランティアが携わる際には、やりがいのある仕事として認識できるかどうか重要であるという意見が出されました。

● 第6回 活動及び展示・窓口ワーキンググループ

日時：平成28年12月19日（月）13時30分

場所：本庁舎2階21会議室

「まちづくり」と「機能連携」をキーワードにした事業アイデアの検討が行われました。

既に市内各地にある小さなグループでの文化活動が互いに連携することでまちづくりに関わる活動へと発展することや、文化芸術活動をきっかけとして、結果的にまちづくりに関わる活動に参加している仕掛けのアイデアが出されました。また、家庭料理なども身近な文化の継承であり、新しい施設で目指すべき視点として提案されました。なお、自動車移動を要する市の地形や交通網を考慮し、交通手段をセットにしたイベントや企画の有効性が議論されました。

● 第6回 鑑賞ワーキンググループ

日時：平成29年1月20日（金）13時30分

場所：本庁舎3階会議室

「まちづくり」と「機能連携」をキーワードにした事業アイデアの検討が行われました。

市内での子育て環境の課題などを踏まえ、子どもの成長に果たすまちづくりの役割が議論され、新しい施設を子どもの居場所とするような事業が提案されました。また、施設内での活動に留まらず、既存のイベント会場と連携することや、中心市街地を文化芸術拠点として役割転換し、市内全体で活動が展開されるための工夫が話し合われました。

● 第5回 検討委員会

日時：平成29年1月23日（月）14時00分

場所：本庁舎9階会議室

ワーキンググループからの報告として、事業アイデア集が紹介されました。近年の公共施設の建設において、発注者側が具体的な活動のイメージを出さなければ、設計者側は設計提案の拠り所をなくしてしまうという点が挙げられ、基本計画における事業アイデア集の重要性が強調されました。新しい施設が目指しているのは、既存施設の面積を単純に確保することではなく、基本構想やそれに基づく事業アイデアの実現であり、そのために丁寧な議論を重ねていることが確認されました。

市民ホール建設地に係る比較検討においては、まず、市内広域での立地検討について、中心地だけでなく端部にも候補があるか否かの確認がありました。また、基本構想の方針を鑑みた際、オープンスペース^{注8)}の確保のしやすさが重要であるという意見が出されました。さらに、利用者数の規模や圏域を想定した面積の検討の必要性について議論されました。今後も、比較する際に重要となる項目を増やして検討を継続することが求められました。

● 第7回 合同ワーキンググループ

日時：平成29年2月22日（水）13時30分

場所：本庁舎2階21会議室

平成28年度の議論の振り返りとして、事業計画の体系図が示され、各グループで出された意見の中から共通している項目や重要視されてきたことについて整理しました。

活動グループでは、「プロ・セミプロ^{注9)}との協働による文化力の向上」、「具体的な年齢層や使い手を意識した検討」、「市民の要望を着実に実現できる環境整備や仕組み」といったように、現在実施されている活動の中での実感にもとづいた検討を行ったことが報告されました。

鑑賞グループでは、「施設の建設を契機とした芸術文化活動の活性化」、「芸術文化活動を通じた交流・仲間づくり」、「施設全体・市全体で活動を展開していくための必要性」といったように、文化芸術活動の特性を生かした事業アイデアについて検討を行ったことを報告しました。

注8) 都市や敷地内で、建物の建っていない土地や空地。建物外部は市民が気軽に訪れやすく、様々な企画を実行できる重要な場所。(英語：open space)

注9) プロとはプロフェッショナルの略で、専門家や本職としてその活動を行う人。セミプロとはセミ・プロフェッショナルの略で、本職ではないが、それに準ずる技芸を持つ人。(英語：professional, semi-professional)

展示・窓口グループでは、「継続的な来訪を促す工夫や仕掛け」、「具体的な使い手や場所を想定した検討」、「全市民の施設利用を促進する公共交通や広報との組み合わせ」といったように、施設が日常的に利用されるための仕掛けや工夫について検討を行ったことを報告しました。

平成 29 年度は、豊富な事業アイデアとそこで議論された内容を受け、それらを実現するための建物の諸条件をまとめていく作業が行われることと、その際に検討委員会とワーキンググループが合同でデザインワークショップ^{注10)}を実施する予定であることを示しました。

●● 第 6 回 検討委員会及びワーキンググループ合同会議

日時：平成 29 年 3 月 22 日（水）14 時 00 分

場所：本庁舎 2 階 21 会議室

平成 28 年度の議論の振り返りとして、事業計画体系図の確認と事業アイデア集の確認が行われました。また、平成 29 年度から取り掛かる事業計画に基づいた設計条件の検討方法を確認するため、各グループの具体的な事業アイデアを例に、空間イメージを議論しました。

活動グループでは、各地のコミュニティセンターや自宅などで行われている小規模な活動が共用空間に一堂に会するというアイデアから、共用空間のイメージについて意見が交わされました。ここでは、外部と内部の空間が効果的に利用されるような屋外オープンスペースや、庇の有効性について意見が出されました。

鑑賞グループでは、公演の後にホワイエ^{注11)}で演者や観客を交えた交流を行うというアイデアから、ホール、ホワイエ、ロビー^{注11)}の連続性について話し合われました。ホール内部のイメージに留まらず、外部空間とのつながりや、配線や設備の重要性、飲食可能にするためのレストランやカフェとの位置関係など、具体的なイメージが出されました。

展示・窓口グループでは、利用者が施設で植物を育てていき、それらの観察結果や育成過程を展示するアイデアや図書室でイベントや他の活動と連動した展示が行われるというアイデアから、展示空間と外部空間、カフェとの隣接といった場所の関連性についての意見が出されました。また、本棚や椅子などの家具についても重視する点として挙げられました。

最後に、事業計画の検討が、空間計画の条件提示へ連動する実感を共有し、引き続き活発な議論を交わすことが確認されました。

【平成 29 年度】

●● 第 1 回 検討委員会及びワーキンググループ合同会議

日時：平成 29 年 6 月 26 日（月）13 時 30 分

場所：本庁舎 9 階会議室

第1回検討委員会では、平成 28 年度の成果として、63 個の事業アイデアを作成し、それらを事業計画体系図にまとめ、事業方針を整理したことが確認されました。平成 29 年度は、土地利用、規模計画、内部の仕様などの計画という順番で検討することが示されました。

まずは、現市民会館と市の方針として候補地として示されている現東小学校敷地の周辺環境の特徴や課題についてグループディスカッション^{注12)}を行いました。車でのアクセスについては、国道 36 号線からの右折ができないため住宅地を迂回する必要があること、駐車場の出入り口の混雑、駐車場の不足と駐車場所の分散などが課題として挙げられました。また公共交通機関や徒歩でのアクセスについては、バスの時間が限られること、バス停から見えにくい場所にあること、警察署の西側などは暗くて一人歩きには不安があることなどが指摘されました。カルチャーストリートは歩行空間として整備されているため、徒歩でアクセスする人が増えるような公共交通のルート設定などが求められました。

次に、グループに分かれて敷地全体の土地利用を検討しました。各グループの案には共通点が多くみられ、アクセス・アプローチ^{注13)}については、車が左折のみで安全に進入できること、出入り口の数を調整することで混雑を緩和することが挙げられました。また、歩行者の散歩コースとなるように、既存の遊歩道を生かすこと、搬出入の車両と一般車両、歩行者の動線を分けることが重要視されました。土地利用については、東側に建物、西側に駐車場を配置することで、周囲の住宅へ

注 10) ワークショップとは、参加者全員が自ら経験を披露したり作業をしたりして、参加者同士の相互作用による学びと創造の方法。ここでいうデザインワークショップとは、特に建築の設計を具体的に想像しながら、問題の解決や新たな価値を思考し、互いに概念を組み立てること。(design workshop)

注 11) 劇場やホールなどの出入りの多い施設で、出入口と客席部分の間にある廊下、休憩所、応接間などを兼ねる広間。特にもぎり位置よりも客室側をホワイエ、外側をロビーとする。(英語：lobby、フランス語：foyer)

注 12) あるテーマについて、少人数のグループで行う討議。個人が意見を出しやすく、それらをグループ内で相互確認できる点で効果的な手法。(英語：group discussion)

注 13) アクセスとは、敷地へ至るまでの通路や交通の便。アプローチとは、道路や門から建物の出入口までの通路又は導入空間。(英語：access, approach)

景観上の配慮をすること、駐車場を現市民会館の敷地と併せて利用することの可能性についても検討されました。また、既存の市民会館前のオープンスペースや、東小学校の樹木を生かして一体的に連続させることが提案されました。

●● 第2回 検討委員会及びワーキンググループ合同会議

日時：平成29年7月24日（月）13時30分

場所：本庁舎9階会議室

第2回検討委員会では、はじめに、第1回検討委員会で各グループで議論した土地利用に関する内容をまとめ、事務局としての配置案が示されました。次に、ホールや会議室、展示室や事務室など、複合施設が持つ4つの機能（活動・鑑賞・展示・窓口）の割合を考慮しながら、建物の立体的な配置をグループに分かれて検討しました。

エントランスホールについては、外部のオープンスペースに面して一体的に利用することや、カフェを隣接させることで、施設の利用者だけでなく通りがかった人やカフェ利用者が気軽に施設を訪れることができるという意見が挙がりました。また、ホールのホワイエの配置についても、ホール利用者の動線を分け、混雑を緩和させることへの配慮が必要であることが確認されました。展示スペースや図書スペースを通路となるような共用（コラボ）スペース^{注14)}と一体にすることで、様々な人が関心を持つ機会が増えるというアイデアや、子どもが安心して遊べる賑やかな場所と、鑑賞の余韻に浸るような静かな空間を分ける必要性なども議論されました。また、ホールに直行できるような練習室を設けること、鑑賞スペースと活動スペースを兼用する多目的室や、会議室よりも練習室等の多目的室を充実させることなど、普段の利用状況に即した具体的な提案がありました。

注14) コラボレーションスペースの略。異なる分野の人が協力し、共同で創造する場。ただ通過するだけの共用空間ではなく、「活動」「鑑賞」「展示」「窓口」といった各機能が積極的に交わる場として用いる語。(collaboration space)

●● 第3回 検討委員会及びワーキンググループ合同会議

日時：平成29年11月6日（月）13時30分

場所：本庁舎9階会議室

第3回検討委員会では、議会で報告された予算や敷地面積の検討を踏まえて算出された延床面積の目安と、第2回検討委員会での議論に基づく事務局案として、各機能に求められる必要面積と割合、諸室の統合案が示されました。続いて、各機能の面積割合を反映させたモデル図面を参考に、「活動」「鑑賞」「展示・窓口」のグループに分かれて、それぞれの部屋の雰囲気や共用（コラボ）スペースとの関係について、具体的なイメージを持ちながら検討しました。最後に、ホールの座席数について、既存の利用状況や、基本構想を実現できる面積割合を考慮しながら議論しました。

活動スペースでは、音の聞こえ方や見え方などを考慮し、活動の性質に応じたまとまりをつくること、部屋の接続方法の工夫により様々な活動団体の需要や利用に応えるという提案がありました。鑑賞スペースでは、多目的用途の大空間や楽屋について活動スペースを積極的に活用すること、ホールとコラボスペースの関係性を築きやすい配置を検討することが求められました。展示・窓口スペースでは、雰囲気の異なる2つのカフェや相談しやすい窓口を設けることなど、気軽に訪れることのできる施設を意識した提案がありました。なお、特にコラボスペースとの関係として、目的に合わせた柔軟な利用が求められました。

座席数については、現状の市民会館の規模相当を求める声と、施設全体のコンセプトに応じた面積配分や、人口規模に見合った席数の設定を求める声が挙がりました。様々な規模や用途に対応するためには、例えば1階と2階を分けたり、時間区分を見直したりすることで、料金設定を低くするという提案が出されました。また、市民利用を優先した規模の検討をすること、楽屋の使い勝手の改善についても言及されました。

パブリックコメントの結果

パブリックコメントは、平成 30 年 1 月 13 日から平成 30 年 2 月 25 日までの 44 日間実施し、11 人から 11 件、11 項目の意見が寄せられました。

内容としては、建設地、市民参加に関するものなど、基本計画における記載と合致するもの、ホールの規模や機能、施設全体の機能など、今後の設計段階にて詳細を検討していくもの、管理運営組織や利用料金の設定、情報発信など、管理運計画にて検討するものがありました。

本意見を踏まえて、多目的利用ができるホールの設置について、基本計画の 48 ページに「複数のスペースを一体にして、300 m²級の多目的室を確保」と追記しました。なお、その他の意見については、基本計画と趣旨が同様と考えられるもの、今後の施策の進め方等の参考とするもの、基本計画に取り入れなかったものであり、これらの意見も含めて、提出された意見に対する市の考え方として公表しています。

● 事業紹介展示

日時：平成 29 年 6 月 3 日（土）10 時 30 分～18 時 00 分

場所：イオンモール苫小牧 1 階ウエストコート内特設スペース

基本構想・基本計画、建設地に係る市の考えなどについて広く市民に周知するイベントを開催しました。会場は、イオンモールとし、より幅広い年代の市民に関心を持ってもらえるよう、検討委員会及びワーキンググループで作成している 63 の事業アイデアをパネル展示し、現市民会館周辺の模型を展示しました。

約 600 人の市民の参加があり、特に子どもと大人が共に楽しめる事業に関心が集まり、「食」も文化であるという考え方に共感が得られました。

● 公開ワークショップ

日時：平成 29 年 10 月 21 日（土）14 時 30 分～17 時 00 分

場所：COCOTOMA ラウンジ

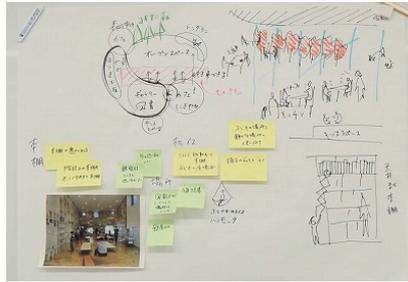
これまでの基本構想や基本計画の検討経緯を紹介するとともに、市民ホールが目指すサードプレイスについての理解を深めるため、市民ワークショップを開催しました。

ワークショップでは、事業アイデアの課題や発展性を話し合い、その後、具体的なアイデアを実現する部屋や雰囲気について議論しました。例えばとまチョップポイントと連動した事業アイデアについて、それらを貯める場所と使う場所のイメージが具体化しました。また、モノづくりの場やカフェについて、周りの部屋や他の活動とつながる工夫が挙げられました。さらに、子どもの活動を支える事業について、練習と発表の場の性質の違いや保護者や通りがかった人も関心を持つつくり方などについて提案がありました。

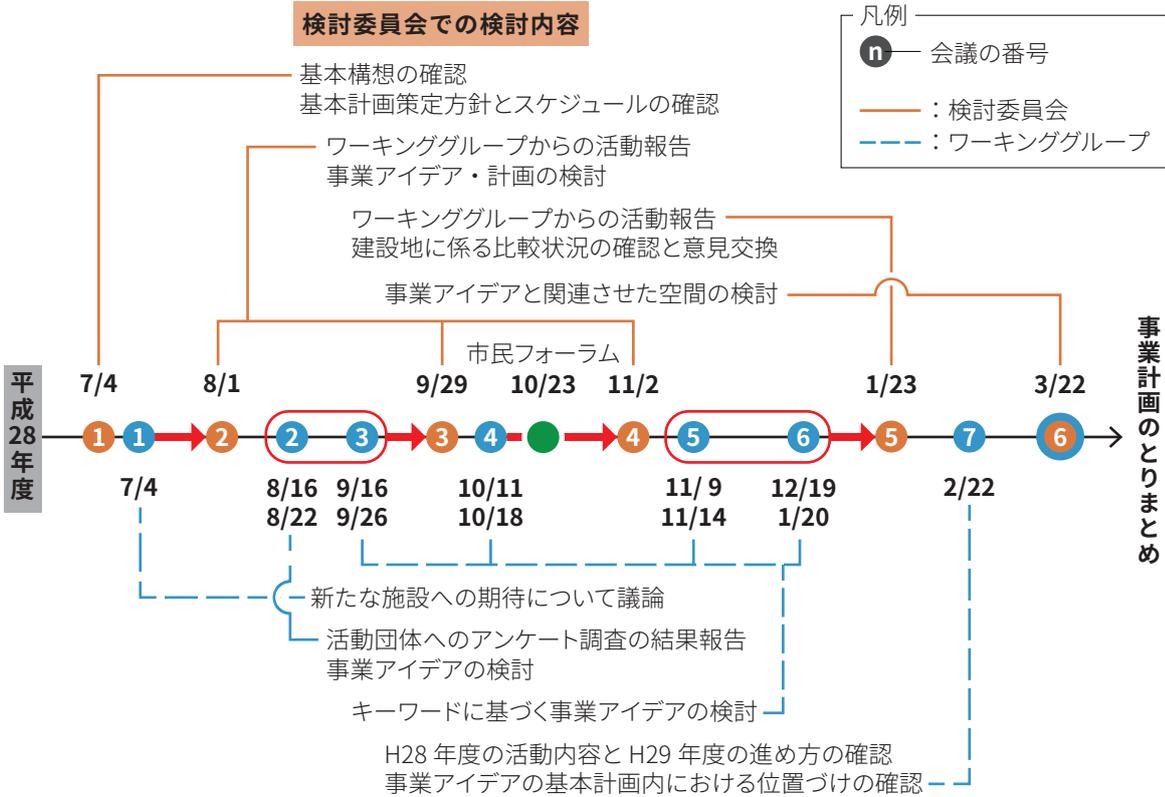
特に中高生の参加が多く、日頃ホールを利用し、また文化活動をしている市民と議論する機会となりました。



検討委員会の様子



第6回検討委員会の成果例



ワーキンググループでの検討内容



活動ワーキンググループの様子



鑑賞ワーキンググループの様子

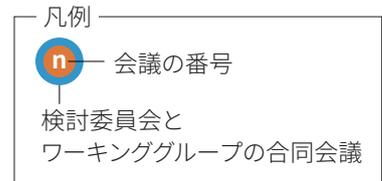


展示・窓口ワーキンググループの様子

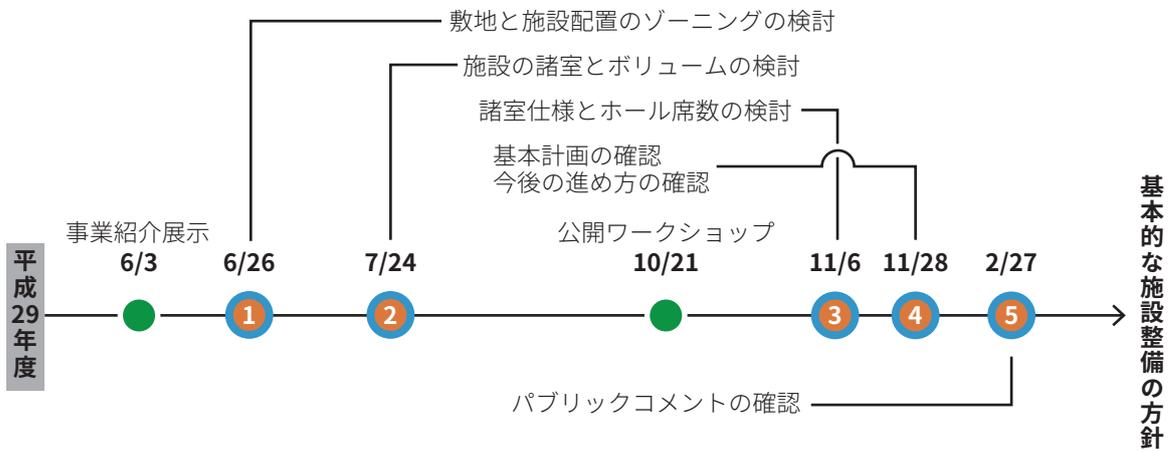
図 1-3 平成 28 年度の検討経緯



第1回合同会議の様子



合同会議での検討内容



第1回合同会議の成果例



第3回合同会議の成果例



第2回合同会議の成果例

図 1-4 平成 29 年度の検討経緯

